

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No. 40 2014年6月

第44回理事会・第14回通常総会を開催 新会長に小林栄三 伊藤忠商事会長が就任	2
2013年度（平成25年度）事業報告	2
2014年度（平成26年度）事業計画	5
2013年度（平成25年度）決算及び2014年度（平成26年度）予算	6
役員等	6
外国企業支援	
「TNT Japan 2014」の受付業務を担当して	7
国際イベントへの協力	
「JA全農2014年世界卓球団体選手権東京大会」を支える ボランティアにABIC会員49人参加	8
「世界卓球」のボランティア活動報告	8
世界卓球ボランティアのドタバタ日記	8
ピンポン外交	9
教育	
滋賀県大津市立粟津中学校での国際理解教育	10
留学生支援	
アセアン諸国向け日本語パートナーズ	11
東京国際交流館 春の新入館者歓迎バザー	12
エッセー	
心の健康と坐禅塾	13
事務局だより	
関西会員懇親会を開催	12
関東財務局主催説明会でABICを紹介	12
ABIC事務局組織	14
会員の種類	15
法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数	15
賛助会員入会のお祝い	16

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル23階
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5970
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル9階
Tel & Fax : 06-6226-7955
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

第44回理事会・第14回通常総会を開催 新会長に小林栄三 伊藤忠商事会長が就任

5月30日、日本貿易会会議室において第44回理事会並びに第14回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2013年度事業報告及び収支決算、②2014年度事業計画及び活動予算、③任期満了に伴う役員を選任、④正会員の入会が審議され、いずれも原案通り承認されました。

会長として小林栄三 伊藤忠商事会長が選任され、槍田松瑩会長（三井物産）は名誉会長に推戴されました。市村泰男理事長（日本貿易会常務理事）が退任し、後任として齊藤秀久（元丸紅執行役員）の就任が決まりました。市村理事長は、今後は顧問としてABICの活動を支援することになりました。

また、個人正会員に槍田松瑩氏、市村泰男氏が入会。副会長には飯島彰己 三井物産社長が新たに委嘱されました。



小林会長



齊藤理事長

2013年度（平成25年度）事業報告

活動分野	主要事業	主な活動状況 ＜活動実績：2013年度 延べ人数1,618名＞ ＜活動会員数：2,448名（2012年度末比131名増加）＞	活動実績 (延べ人数)		
			2013年度	2012年度	00~13 年度累計
政府機関 関連	ODA関連等 への人材推 薦・紹介、 政府関係諸 事業の受託、 本邦中小企 業支援関連 への人材推 薦・紹介、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣 等	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、外務省領事シニアボランティアでの活動は今年度は無かった。 国内での活動：JETRO非常勤嘱託職員（6名）、中小企業基盤整備機構の中小企業支援事業アドバイザー・販路開拓ナビゲーター（14名）を継続。文部科学省拠出金支出案件（国際移住機関/IOMが執行）「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室／筑波常総）」は5年目となり、また文化庁による「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を受託した。他には、（公財）太平洋人材交流センターの要請で中南米・アフリカ諸国の貿易促進を担う派遣者十数名に対する研修会への講師派遣（英語）。 上記諸機関に加え、文科省留学生交流拠点整備事業の委員及び国際交流基金「日本語パートナー派遣事業委員会」の委員を務め、又、経済産業省、中小企業庁、文部科学省、近畿経済産業局、関東経済産業局、関東財務局、国際協力基金等とのコンタクトを継続・強化し、公募案件への対応であったが、推薦・紹介・受託による活動を行った。 	57	69	1,030
NGO/NPO 等政府機関	NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NPO国連世界食糧計画WFP協会にアドバイザーとして、またNPO産業技術活用センターにメンター登録して適宜支援活動を継続。NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の賛助会員としてNPO活動に関する情報収集を行った。 	5	7	158
地方自治体・ 中小企業支援	地方自治体 の推進する 中小企業育 成支援（販路 開拓、海外ビ ジネス促進 等）や農産 品輸出促進・ 企業誘致等 への協力、 及び中小企 業、諸組織 への直接支 援・協力（海 外進出・経 営支援等）	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県、わかやま産業振興財団、山口県/産業振興財団、山梨県/産業支援機構、富山県/新世紀産業機構、千葉県/ジェトロ千葉貿易相談センター、横浜市、岐阜県/産業経済振興センター及びクリア（自治体国際化協会）との取り組み継続に加え三重県、石川県との取り組みを開始した。和歌山県知事から委嘱の「起業家入居審査委員会」の委員も務めた。 他の地方自治体関係では、東京都中小企業振興公社ビジネスナビゲーター及び海外販路開拓アドバイザー、大阪府/東大阪市共同のクリエーションコアの他、宮城県/長野県/神奈川県/兵庫県/島根県/愛媛県/福岡県/和歌山県の企業誘致や販路開拓アドバイザー等で活動、福島県での国際化支援アドバイザー、自治体関連組織での英語に加え韓国語、タイ語、ロシア語、中国語、ベトナム語の翻訳活動、私企業での海外ビジネスアドバイザー、などの紹介を行った。また各自治体や大手金融機関主催のセミナーへの講師派遣も要請に基づき、都度行った。 関西デスクでは大阪市/国際経済振興センター、神戸市/経済局のアジア進出支援センターと産業振興財団に総計70名のABICのメンバーが登録済みでその中から必要に応じて中小企業へのサポーターとして長期・短期で活躍している。2013年度は述べ11人が活動。 大阪市/（公財）都市型産業振興センター（2名派遣）、大阪産業振興機構（4名派遣）、地球環境センター（1名派遣）、滋賀県産業支援プラザ（1名派遣）と新たに覚書を交わし海外進出業務を含めた支援業務を開始。 また、今期香川県との取り組みを再開した。 今年度の新規事業であるJETROの中小企業海外進出支援専門家事業にはパソナ社を通じ24名を紹介。 Foodex2014会場に日本能率協会、愛媛県の要請で英語・中国語通訳9名を派遣した。 2013年度も過去の活動実績への評価が高まり、口コミ、ホームページ、会員経由等により、これまで実績の無かった地方自治体、中小企業あるいは諸組織からの支援要請が増加し、活動機会が広がっている。 	595	567	4,050

活動分野	主要事業	主な活動状況 ＜活動実績：2013年度 延べ人数1,618名＞ ＜活動会員数：2,448名（2012年度末比131名増加）＞	活動実績 (延べ人数)		
			2013年度	2012年度	00～13 年度累計
外国企業支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援及び日本企業の海外展開支援・赴任者相談	<ul style="list-style-type: none"> 6年目となった国際ナノテクノロジー国際総合展バイリンガル・ビジネス・アドバイザーやTNT国際会議でのレセプション業務（6名）に加え、Foodex2014に7名・東京モーターショーに4名（共に在京メキシコ大使館要請）のスペイン語通訳を派遣した他、他の在京海外大使館からの依頼にも対応している。また、東南アジア企業への人材紹介、日本でのビジネスについての相談や日本企業の海外赴任者赴任前研修への講師派遣も行っている。大手人材派遣会社にも異文化理解、グローバルビジネス交流等についても講師派遣、活動の幅を広げている。活動数増が期待できる。今年度はアイオワ州政府日本代表交代があり前代表に続き新代表もABICより選ばれた。 日本貿易会が企画した商社研修事業「商社のための海外赴任前研修」に講師を派遣。次年度以降も講師を派遣する予定。 	72	69	520
大学及び社会人講座	大学・社会人講座等での講座実施	<ul style="list-style-type: none"> 37大学・組織へ講師派遣。年間講座数64、コマ数1,693を実施。対象組織数、講座数、講師数共に減少したがコマ数は増加した。今年度は特に新規会員の活動機会提供を優先し、講師の入替えや魅力ある講座の組み立てに注力した。 新規講座として山口県立大学、福岡大学、大妻女子大学などから受託した。青山学院大学「産官学連携会議」の委員も委嘱された。 文部科学省主催のセミナーなどでABIC大学講座の取り組みPR活動を行った成果として、山口県立大学より依頼があり、2013年度に実現した。引き続き多数の大学よりABICの講座に対する問い合わせが来ており、2014年度の新規講座獲得に向けて各大学との協議を行っている。 	278	295	3,563
教育	国際理解教育支援等	<ul style="list-style-type: none"> 小中高校生や教職員への国際理解講義・講演会へ引き続き注力した。千葉県教育委員会での新任校長・教頭研修で2回講演を実施した。 関西学院大学（2003年2月に連携協力協定締結）との協力関係を進め、引き続き海外からの留学高校生と日本の高校生との「高校生国際交流の集い」（1泊2日）を関西で実施した。関東でも引き続き青山学院大学と連携し「高校生国際交流の集いABICキャンプ」（1泊2日）を丸紅多摩研修センターで実施した。 東京都多摩市及び新宿区において教育委員会に協力し、外国籍児童・生徒に対する日本語学習支援を引き続き実施し、大きく好評を得た。 関西地区の国際理解教育では大津市立栗津中学校に今年度も4人の講師を派遣。神戸市立西落合小学校にも講師を派遣した。 滋賀県教育委員会学校支援センター HPにABIC関西デスクの国際支援教育活動内容を登録。併せ、京都市教育委員会にも同様の団体登録を行った。 	99	125	895
在日留学生支援	在日留学生支援・交流	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館において、引き続き日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を送ると共に、バザー、フェスティバル等の催しにも協力。 2006年度から開始した国際交流館在の留学生家族支援（健康診断、子女入園・入学手続き等）が増加し、大変好評を得ている。 	392	321	1,922
国際イベント等	国際イベント等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 2013年度は2014年4月～5月に開催予定の「世界卓球2014東京大会」に約50名のボランティアを紹介。 	0	0	129
その他活動・一般人材紹介等	その他活動・一般人材紹介等	<ul style="list-style-type: none"> 会員会社の社会貢献事業への支援（三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」①奨学金供与プロジェクト②NPOなど支援プロジェクトなど） 教育および留学生関係で、過去紹介した帝京大学/中京大学/日本文化大学/聖学院大学/東京外国語大学/東京学芸大学附属国際中等教育学校教授・講師・職員等も継続となった。新たに神田外語大にベトナム語、タイ語、インドネシア語各学科担当の嘱託職員の紹介を行った。 ABIC日本語教師養成講座（第14、15期）を継続実施した。第1期から15期までの講座修了者139名の内約半数が地方公共団体や東京国際交流館において日本語講師として活躍している。また「エコロジー促進事業共同組合」が主催する外国人技能研修生集中研修の一部としての日本語研修に講師として参加、各地の国立青年の家で延べ8名の会員が活動している。 日本貿易会内の業務効率化支援として、新聞クリッピングへの協力を継続。 	120	116	919
合 計			1,618	1,569	13,186

活動会員関係	活動会員増強	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・ABIC委員会委員を通じて、各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封願った。
	活動会員スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も大学・EC等 講座講師勉強会を実施した（東京10月21日23名参加）。また今年度はネイティブスピーカーによる英語で授業をするための講習会を開催（東京11月21、28日29名参加）。 2006年10月に開講した日本語教師養成講座を継続し、今年度は第14、15期合計12名が修了証を取得。第1期からの講座修了者は139名となる予定で修了者は主にボランティアとしての日本語講師として活躍している。

広報活動等		<ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの『ABIC Information Letter』を発行（年3回 6/11/3月 No.37/No.38/No.39）。 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。また日本貿易会のホームページにおいてもABICのホームページをリンクして貰っている。 ブレイズ2013年11月13日号にてABIC活動会員増加や活動の一層の活発化の記事、2014年2月11日号にてキャリア教育アワード受賞の記事が掲載された。 文部科学省主催のグローバル人材育成推進事業、留学生交流拠点整備事業のシンポジウム及び経産省主催の人を活かす産業懇談会等でABICのPRに努めた。 今年度も、東京国際交流館主催の春・秋の新入館者歓迎会にてバザーを実施。また、夏の「交流館フェスティバル 2013」において、ABICが指導している茶道、華道、書道コーナーを設けて来場者に対応した。バザーについては、ABIC活動会員並びに社会貢献・ABIC委員会経由法人正会員各社役員から多くの品物を寄贈頂き、売上金の殆どを交流館の行事に役立てて貰うべく寄贈した。 産業界が行うキャリア教育の内、優れた教育プログラムを表彰する経済産業省第4回「キャリア教育アワード」において、ABICの「豊富な国際ビジネスに基づいた大学・大学院での講座提供」が奨励賞を受賞。
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターについては組織の見直しを行い、前年度比4名減の23名とした。なお、在日ブラジル人子女教育支援の特定プロジェクトスタッフ及びパートタイマーとして、複数名任用。 <p> 経理・総務： 名鏡敬治、道家千波、青柳友紀、後藤礼子 地方自治体・中小企業支援グループ： 高廣次郎、新妻純一、野津 浩、白石一郎、(川俣二郎、高塚謙次) 外国企業支援グループ： 西山勝昭 大学・EC講座グループ： 森 和重、谷川達夫、猪狩真弓、布施克彦、恩田英治、坂野正典、(吉富茂隆、藤原照明) 小中高校国際理解教育グループ： 川俣二郎、高塚謙次 産学協同プロジェクトチーム： (川俣二郎、高塚謙次、橘 弘志、松尾謙二) 留学生支援グループ： 田中武夫、鋤形 勲 中南米デスク： (森 和重) 在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム： (森 和重)、畑 宏幸、高岡淳二、星野和俊、柴崎敏男、藤原真理、松本一子、春原直美 「虹の架け橋教室」推進チーム： (森 和重)、栗田政彦、中川香織、他現場担当コーディネーター/パートタイマー 関西デスク： 吉富茂隆、藤原照明、橘 弘志、松尾謙二 </p>
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> 休職していた経理担当職員1名は2013年10月より職場復帰。 全省庁統一資格の更新など諸契約、規則・規程の整備を適宜進めた。NPO法の変更及びNPO法人会計基準の変更に伴い定款を変更した。

会員状況	正会員	法人	<ul style="list-style-type: none"> 17社、1団体（2012年度同様）：伊藤忠商事、稲畑産業、岩谷産業、兼松、協同木材貿易、興和、JFE商事、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会（社名50音順）
		個人	<ul style="list-style-type: none"> 9名（2012年度同様）：池上久雄、寺島寛郎、小島順彦、宮原賢次、吉田靖男、岡素之、佐々木幹夫、勝俣宣夫、小林栄三（入会順）
	賛助会員	法人	<ul style="list-style-type: none"> 4社（2012年度比1社増）：(有)イーコマース研究所、(株)エックス・エヌ、(一社)国際行政書士機構、NPO法人賛否両論（50音順）
		個人	<ul style="list-style-type: none"> 397名（2012年度末比17名増）…退会者（死亡退会者含む）もあつたが新規入会者が増加
活動会員		<ul style="list-style-type: none"> 2,448名（2012年度末比 131名増） 	

年度毎活動実績	延べ人数
2000年度 (H12)	16
2001年度 (H13)	213
2002年度 (H14)	458
2003年度 (H15)	586
2004年度 (H16)	562
2005年度 (H17)	695
2006年度 (H18)	769
2007年度 (H19)	1,134
2008年度 (H20)	1,308
2009年度 (H21)	1,442
2010年度 (H22)	1,433
2011年度 (H23)	1,383
2012年度 (H24)	1,569
2013年度 (H25)	1,618

2014年度（平成26年度）事業計画

活動分野	主要事業	重点活動内容	延べ人数	
			2014年度 目標	2013年度 実績
政府機関 関連	ODA関連の 人材推薦、 政府機関諸 事業の受託、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省領事シニアボランティア等の人材紹介・推薦。 国内での活動：JETRO中小企業海外進出支援・非常勤嘱託職員・貿易相談員、中小企業基盤整備機構中小企業支援事業アドバイザー、およびHIDA（財団法人海外産業人材育成協会）等での研修講師派遣の受託増。文部科学省（国際移住機関）事業「虹の架け橋教室」の継続受注（済み）と円滑な運営。 経済産業省、JETRO、JICA、外務省、文部科学省、文化庁、観光庁、農林水産省、HIDA等とのコンタクト維持・強化。 	50	57
NGO/NPO 等非政府機関	NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NGO、他NPO、国際機関とのコンタクト継続。 	5	5
地方自治体・ 中小企業支援	自治体の国 際化・中小 企業の販売 促進活動・ 海外進出・ 経営支援・ 協力、中小 企業への直 接支援	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県、わかやま産業振興財団、山口県/産業振興財団、山梨県/産業支援機構、富山県/富山県新世紀産業機構、岐阜県、横浜市など）との一層の関係強化。新規の年間業務委託契約の獲得（宮崎県、石川県、他）。 継続支援・協力先の地方自治体（東京都ビジネスナビゲーター・海外販路開拓非常勤職員、大阪府/（財）東大阪市中小企業振興勤労者福祉機構、大阪国際経済振興センター、神戸市/産業振興財団、神戸市商工会議所、滋賀県産業支援プラザ、宮城県・和歌山県・愛媛県企業誘致アドバイザー等々）との一層の関係強化。他地方自治体（香川県、群馬県、福島県、福岡県等）への積極的なPR推進の継続と受託案件の増大。 ジェトロ等外郭団体や中小企業からの直接支援要請に即応。 	600	595
外国企業支援	外国企業の 日本進出・ 販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> 国際見本市や海外からの各種ミッション、在日大使館、来日外国企業の商談等への協力。外国機関駐日オフィスとのコンタクト強化・拡大。 在日海外企業との連携強化・拡大。海外赴任者研修講師派遣（含、日本貿易会との協働）。 	75	72
教育	大学及び 社会人講 座	<ul style="list-style-type: none"> 実施大学・組織およびコマ数の維持を図りつつ、講師陣の拡充を図り中央大・関西大等新規大学の発掘を積極的に行う。 提案型講座の拡大。 2006年1月に包括協定締結の立命館APUとの一層の関係強化。 2003年12月に連携協力協定締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等）。 グローバル人材育成推進事業採択大学へのアプローチ強化。（山口県立大学、神田外語大学、関西学院大学、青山学院大学他） 	280	278
	国際理解 教育支援 等	<ul style="list-style-type: none"> スーパースーパーグローバルハイスクールをはじめ小中高校での講義・講演先の開拓。文部科学省、自治体教育委員会並びに日本経済教育センターとの連携強化 産学共同プロジェクトとして、関西学院大学・青山学院大学と協力して2007年度から実施している「高校生国際交流の集い」の企画・実施。 多摩地区の小中学校における在日外国人児童への日本語指導の継続支援。新宿区教育委員会「日本語指導支援（外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語指導）」の継続。 	100	99
在日留学生 支援	在日留学生 支援	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館における、日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を派遣すると共にバザー、フェスティバル等の催事への協力継続。新規に兵庫国際交流会館との取り組み検討。 2006年度から開始し好評を博している東京国際交流館在住の留学生家族支援（妊娠、出産、通院、育児、健康管理、入園・就学等）のボランティア活動の充実。 	400	392
国際イベント 等	国際イベント 等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 世界卓球2014東京大会への語学ボランティア派遣。 	49	0
その他活動・ 一般人材紹 介等	その他活動・ 一般人材紹 介等	<ul style="list-style-type: none"> NGO、NPO主催のイベントへのボランティア人材紹介、国際観光振興機構の善意通訳の紹介。 三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクトへの実務支援の継続、日本貿易会並びに法人正会員各社の実施する社会貢献活動への人材面での支援・協力。 帝京大学・日本文化大学・聖学院大学等への教授・講師、東京学芸大学附属国際中等教育学校事務員、グローバル教育講師の契約更新継続。東京外国語大学・神田外語大嘱託職員4名、立命館大学インド事務所長等教育機関関係を主体とした新規の人材紹介や一般企業への新規人材紹介の積極的な取り組み。 府中刑務所での通訳・翻訳支援活動継続。 ABIC日本語教師養成講座教師（継続）に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。日本貿易会の事務効率化支援・協力 	120	120
合 計		(2013年度比3.8%増)	1,679	1,618

活動会員関係	活動会員勧誘	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・ABIC委員会経由で各社OB/OGへの配布協力の継続要請、およびOB/OG会総会及びホームページ等でABIC紹介の機会を買い勧誘を実施。また、活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼。
	賛助会員勧誘	<ul style="list-style-type: none"> 賛助会員数の増加に向け、活動が決まった会員への賛助会員入会依頼を継続。
	活動会員スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教師養成講座の第16期、第17期を継続開講（2006年10月から継続）。 大学等講座講師勉強会（含、英語授業法）を継続実施。
	懇親会	<ul style="list-style-type: none"> 東京・大阪での開催を予定。2013年度は2月に東京、3月に大阪で実施。
法人会員関係	法人会員勧誘	<ul style="list-style-type: none"> 法人会員増に向けて注力。

広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの「ABIC Information Letter」を発行（年3回 6/11/3月） 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーやJFTC News（英文）でABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載。 ABICパンフレット・ホームページの内容見直し・更新及び一層の充実。 今年度も東京国際交流館が主催する春・秋のバザーや「交流館フェスティバル」にてABICのPRや活動紹介を行う。 文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」、「留学生交流拠点整備事業」、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」委員会等でのABIC広報活動継続。 新聞、TV、ラジオ、雑誌等へのABICの露出度拡大（マスコミへの積極的対応）。 	
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーター相互の情報交換促進のためコーディネーター会議を年4回開催。 東京事務局と関西デスクの連携強化。
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの整理等、業務改善への更なる注力。 諸契約、規則・規程の一層の整備。

2013年度（平成25年度）決算及び 2014年度（平成26年度）予算

(単位：千円)

科目	2013年度 決算額	2014年度 予算額
I 経常収益		
(1) 受取会費	6,855	6,880
法人会費	(4,880)	(4,830)
個人会費	(1,975)	(2,050)
(2) 事業収益	98,824	96,560
日本貿易会	(23,520)	(23,520)
その他	(75,304)	(73,040)
(3) 雑収益	122	-
経常収益計	105,801	103,440
II 経常費用		
(1) 事業費	74,911	74,892
(2) 管理費	31,010	32,980
経常費用計	105,921	107,872
当期経常増減額	- 120	- 4,432
前期繰越正味財産額	27,670	27,549
次期繰越正味財産額	27,549	23,117

役員等

(敬称略・就任順)

会長 (新任)	小林 栄三	一般社団法人日本貿易会 会長 伊藤忠商事株式会社 取締役会長
名誉会長 (新任)	榎田 松瑩	前当センター会長、前日本貿易会会長 三井物産株式会社 取締役会長
副会長	小林 健	三菱商事株式会社 代表取締役社長
	加留部 淳	豊田通商株式会社 代表取締役社長
	中村 邦晴	住友商事株式会社 代表取締役社長
	佐藤 洋二	双日株式会社 代表取締役社長
	國分 文也	丸紅株式会社 代表取締役社長
	(新任) 飯島 彰己	三井物産株式会社 代表取締役社長
理事長 (新任)	齊藤 秀久	一般社団法人日本貿易会 常務理事
常務理事	山口 寿夫	一般社団法人日本貿易会 社会貢献グループ部長
理事	三輪 裕範	伊藤忠商事株式会社 伊藤忠経済研究所長
	奥谷 直也	住友商事株式会社 環境・CSR部長
	関 伊知郎	国際社会貢献センター 事務局長
	守屋 義広	三井物産株式会社 環境・社会貢献部長
	松本 匡	丸紅株式会社 市場業務部部长付
	秋元 諭宏	三菱商事株式会社 理事 グローバル渉外部長
	末原 勉	双日株式会社 広報部長
	(新任) 砂田 一彦	一般社団法人日本貿易会 企画グループ部長
	(新任) 遠藤 敏	豊田通商株式会社 総務部社会貢献室長
	監事	天野 正義
顧問	池上 久雄	初代当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	吉田 靖男	元当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	三幣 利夫	元当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	(新任) 市村 泰男	前当センター理事長、前日本貿易会常務理事
参与	宮内 雄史	初代当センター常務理事、初代日本貿易会社会貢献グループ部長
	野津 浩	元当センター常務理事、元日本貿易会社会貢献グループ部長
	名鏡 敬治	元当センター常務理事、元日本貿易会社会貢献グループ部長

「TNT Japan 2014」の受付業務を担当して

すぎした ゆきこ
杉下 由紀子 (大学非常勤講師)

2014年1月29-31日、東京ビッグサイトで開催された nano tech 2014 (第13回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議) に併せ、最先端ナノテクノロジーに関する国際会議TNT (Trends in Nanotechnology) Japan 2014 が行われた。

この会議の主催者Phantoms Foundationは2002年にスペインで設立された政府系NPOで、ナノテクノロジーなど最先端技術をスペイン・EU等先進諸国に紹介するため国際会議やイベントを開催している。今回のイベントを主催者側と入念に準備いただいた西山コーディネーターによると、ABICは過去6年連続でPhantoms Foundationの要請に基づいて同総合展に専門家を派遣してきていて、この度、日本では初めて大規模な国際会議を開催することになり、その受付業務をABICの女性会員にとの相談が、昨年秋頃よりあったとのことである。私はスペイン語専門で英語はあまり自信なかったのだが、数少ない女性会員の一人として、3日間この業務を担当させていただいた。

受付の第一の仕事は、参加者名簿を確認して名札と基調講演者・招待客・一般参加者別に資料を渡すことだった。会議開始直前直後は来場者が殺到して慌ただしかったが、皆で手分けし合いながらできる限りスムーズな対応を心がけた。それが一段落すると、2名が会議場内に入って、壇上の水を取り換えたり、質問者へマイクを渡す作業を担当した。

Phantoms Foundationから来日した職員3名は、英語・スペイン語を流ちょうに駆使し、朝早くから夕方会議終了まであまり休憩もとらず熱心に働いていた。私たちに

は丁寧に業務内容を説明してくださり、不明点はその都度尋ねることができたので大きな問題や運営上の支障はなかった。

会議プログラムには連日たくさんの講演者が盛り込まれているにもかかわらず、厳密なタイムキープがされずに質疑応答やポスター・セッションのコーヒープレイクもしっかり確保しながら進んだので、多少の延長は覚悟していたが、特に初日は時間がだいぶ押ししまい私たちの活動時間もかなり伸びてしまった。

一方、社費での参加者も多く、日本でのやり方と違い、参加費の領収書は会議終了後メールで送るとというのが主催者の方針だったが、場所は日本、それでは納得しない参加者もいて、急ぎ館内の文具店で日本の領収書を購入して対応したので事なきを得た場面もあった。

会議内容は専門家による高度先端技術が主体であったため、私にはよく理解できなかったが、さまざまな国から各分野の専門家が最先端技術等について英語で発表し活発な質疑応答が行われていた。日西交流400周年セッションには駐日スペイン大使も来場され、歓迎スピーチも行われた。

ただ、アレンジの都合で大収容人数の会議場で開催されたため、広すぎて聴講者が少なく見受けられたのが、残念な印象だった。今回の業務を担当して、コミュニケーション能力とチームワークの重要性を痛感。自分ももっと自己研鑽を積んで、またこのような場で貢献できるよう努めたい。最後になったが、このような貴重な活動の場を提供してくれたABICに感謝を申し上げたい。



TNT Japan 2014 受付にて (右から3人目が筆者)

国際イベントへの協力

「JA全農2014年世界卓球団体選手権東京大会」を支える ボランティアにABIC会員49人参加

2014年4月28日から5月5日までの8日間、国立代々木競技場と東京体育館において、国際卓球連盟（ITTF）主催で首記の世界卓球大会が開催されました。この大会を支えるさまざまな分野の語学ボランティアとして49人の会員が活躍されました。その中の3人の方が体験記をご寄稿くださいました。

「世界卓球」のボランティア活動報告

おがさわら あきお
小笠原 明生（元 日本アイ・ビー・エム）

2014年4月28日から5月5日にかけて東京で開かれた世界卓球団体戦のボランティア活動を報告する。

この大会は地区予選を行わず、全ての国が参加できる。そのため、世界の耳目を集めている北朝鮮、シリア、ウクライナなど120以上の国や地域が参加した。日本を含む上位24カ国は代々木体育館、それ以外は私が配属された東京体育館で競技を行った。

私はABIC会員として英語通訳ボランティア活動を行った。通算10年近く米国に滞在して得た英語力と異文化体験を微力ながら役立てることができた。私が配属された支援グループの任務は主催者である国際卓球連盟本部の補佐だ。

試合前日の最初の仕事は100を超えるピジョン・ボックス（連絡箱）を設営することだった。参加団体との業務連絡箱であり、いわば通信インフラの設営だ。その箱には英語で書かれた試合結果や業務連絡用紙などが配布された。コンゴ共和国（Congo Brazzavilleと表示）とコンゴ民主共和国（Democratic Republic of the Congoと表示）など似たような名前前の国を間違わないよう細心の注意を払った。

また、マレーシアやインドネシアなどイスラム教の国からやって来た選手たちに対して、お祈りの部屋であるPrayer Roomが用意された。選手控え室であるPlayer Loungeもあるので、案内するときにはrとlの発音に気をつけた。

課題を感じたのは水入りペットボトルの容量だ。本部が

準備した容量は350ccのペットボトルだった。しかし気温が高かったこともあり、練習用コートに一度に2本も3本も持っていく選手が後を絶たなかった。大容量に慣れている外国選手には350ccでは物



練習用コート前にて筆者

足りなかっただろう。世界人口70億人中9億人が安全な飲料水を確保できないと伝えられている。その一方で、練習で大量の汗をかき、安全な水を自由に手に入れられる選手たちを複雑な思いで眺めた。

今回の通訳は日常会話的な英語力で対応できた。東京五輪のボランティア通訳にも専門的な英語力よりはむしろおもてなしの気持ちを伝える姿勢の方が大切であろう。

私は後方支援にまわったので本戦を見ていない。しかし、練習用コートで選手たちのひた向きな姿を見ることができた。これだけ多くの国の人たちに愛されている卓球というスポーツに親しみと興味を持った。

このような貴重な機会を与えてくださったABIC、国際卓球連盟および日本卓球協会の関係各位に御礼申し上げます。

世界卓球ボランティアのドタバタ日記

日本在外企業協会 広報部長 にしかわ ゆうじ
西川 裕治（元 双日）

研修に始まり決勝に終わる

GWを利用して世界卓球選手権ボランティアに初参加。2日の研修プラス最低4日間の参加が条件。春雨の3月30日、味の素ナショナルトレーニングセンター（板橋）での1回目研修は、ボランティアの顔合わせが目的。2回目研修は4月26日の代々木体育館。自分は「指定席担当」と知らされ、真っ赤なオフィシャルTシャツと黒ジャン

パーが支給された。これが目当ての参加もあるらしいが、これで街を歩く勇氣はない。続いて代々木と千駄ヶ谷の体育館を歩いて持ち場を確認。急な階段の上下は還暦過ぎた身にはちときつい。

2日間の研修が終わり、翌27日は、いよいよ活動初日と意気込んで指定された千駄ヶ谷に朝早く行った。But何時になっても客が来ず、聞いてみたら「試合は翌日か

ら」。28日以降の担当場所は代々木のはず。なんで千駄ヶ谷に呼ばれたのかは謎。ともあれ、支給された日当1,000円で、GWなのに家で待つ妻へ手土産を買い家路に。

「マルドメ仕様」の代々木競技場

試合初日の28日は有給休暇を取得し参加。早朝、人身事故で電車が緊急停止、表参道からは徒歩ホで定刻8時に代々木体育館にたどり着く。9時開場で、なぜか指定席階に自由席客が入ってくる。入口に自由席と指定席を示す看板がない。「なぜないの」と聞いたところ、「看板設置を求めたが許可されず」と。「席で食事はOK?」と客に聞かれ、総合案内所に案内したがNo one knows。慌てて協議し「OK」と決め、広い体育館を一周して他ボランティアに伝え終えた途端に、「席での食事はご遠慮を」と場内アナウンス。外国人から「VIP席はどこ」と聞かれてもWho knows。「本当に総合案内所?」と英語で皮肉られ。

最多の質問はWhere is the toilet? 遠くに小さく「化粧室」の表示が1つあったが、ほとんど見えないし外国人に「漢字」はちと難しい。入口付近には喫煙場所のサインもない。暗くて急な階段に足元照明はなく「危険はいっぱい」。2020年の東京五輪は大丈夫か?



ボランティアの控室で打ち合わせ

日本男子は準決勝まで勝ち上がり大会は大盛り上がり。女子は大逆転で5日の決勝に。想定外の決勝戦でテレビ中継予定がなかったが、慌てて4日深夜に中継を決定。5日は早朝の地震で始まり、被害がないことを確認し開場。女子は決勝では負けたが銀メダル。多くのシニアパワーを実感したドタバタ体験だったが、わがままな?ボランティアを必死で束ねた大会関係者のご苦労には脱帽。

ピンポン外交

やない かつとし
箭内 克俊 (元 日本輸出入銀行)

ABICのご案内で世界卓球2014東京大会のボランティアに参加した。担当は報道写真家の入退出管理(ゼッケンの付いたベスト=ビブスの貸し出し・回収)で、競技終了後まで持ち場を離れることなく、休息はコンビニ弁当の数十分のみで、トイレタイムも予定できぬ、トラック横付けの搬入出場のコンクリート床の端に置かれた机に終日張り付いて、毎日23時ごろまで続く、フロント・ラインであった。

卓球といえば思い出すのは「ピンポン外交」だ。この大会でも中国の圧倒的強さが目立ったが、その躍進のきっかけは日本の卓球人の力にある。

名古屋での世界選手権大会(1971年)に、日本は中国の参加を呼び掛けた。中国は台湾を除外することを大前提

としたが、日本卓球連盟会長(後藤)の強い働きかけで周恩来の勇断もあり、文化大革命で断絶していた、中国の参戦が実現した。

その大会でのあるハプニングを、時機

我にありと速攻したのが「ピンポン外交」である。それは中国選手団のバスに誤って1人の米国選手が乗り込んだことに発する。これが米中の選手の交歓につながった。中国は機を逃さず、欧米の卓球チームを中国に招待する。その裏ではキッシンジャーが動き、ニクソン訪中となり、田中訪中に及ぶ。1972年の米中国交回復であり、日中国交回復に続くこととなる。

いま世界の卓球を圧倒的に制している中国も、かつては、日本を目指したのだ。英国を発祥とするピンポンは、球の弾ける音からの疑音名であるが、あるとき商標登録されたので、テーブル・テニスと名乗ることとなった。日本では、それを卓球と称した。第二次大戦後、日本はその繊細な身体能力を活かして欧州に伍して参戦し、国際卓球連盟の会長(荻村)を出すまでになる。中国は日本を学んで国家戦略としてピンポンを育てる。中国ではいまでもピンポンと称する。米中国交回復40周年には、カーター元大統領の訪中を求め、習国家副主席と大きな卓球ラケットに互いにサインして交換した。だが、卓球会の厚遇と選手行状の不始末などから、中国内で卓球人気は下火とも聞く。

今次の東京大会に関しては、日本の体育会系に組織能力が欠けているのではないかと実感した。オリンピックには国民の力を結集しないと「おもてなし」どころではなくなるのではと危惧している。その東京大会にもボランティアで参加することを夢見つつ、いまバラの香に心をゆだねている。この機会を頂いたABICに感謝。



通行証(報道関係者エリア)

教育

滋賀県大津市立粟津中学校での国際理解教育

橘 弘志 (関西デスクコーディネーター、元三井物産)

ABIC会員による大津市立粟津中学校における国際理解教育出前授業は、2002年に開始以来、今回で13回目を迎えた。今回は、エジプト、ブラジル、スペイン、ロシア4カ国が授業対象国となり、2013年12月4日同校で行われた。同校では、授業に先立ち、4つのクラスでおのおののクラスが授業対象の一国について、担任教諭の指導の下、生徒自身が調べ、結果発表をする事項をまとめたものを、クラス全員の共同作業で壁新聞のような形式に仕上げる。出前授業当日、各クラスでは同時並行的に、生徒自身が進行する形で、学習の結果発表を行う。次に、講師となるABIC会員が発表内容を考慮に入れ、資料、写真集、映像を駆使しながら、当該国の文化、生活、習慣、スポーツ、学校生活、日本との比較など経験談を含め、分かりやすく説明をしたり、生徒との対話を交えて授業を進めてゆく。

ネットが発達した現代では、生徒は比較的容易に当該国に関し一般的な知識を得ることができるが、やはり、現地での生活経験に基づく各講師の話は生徒の関心を大いに引く。今回、授業対象国となった国々のうち、エジプトは2012年にも授業対象国であり、2年連続となった。ブラジル、スペイン、ロシアはオリンピック開催予定国であったり、候補となった国であり、学習対象として関心があったのかとも思われた。

授業終了後に生徒全員が書いた感想文を読む機会を持ったが、各国に共通することとしては、「調べたこと以上の詳しい事情が分かった」、「前もって持っていたその国のイ

メージとは随分違っていた」、「日本との文化、生活習慣の差がよく分かった」、そして「将来自分も海外での生活を体験してみたい」等があった。エジプトについては、特に日本との生活習慣の差の大きさ、驚きをつづったものが多くあった。

一方、講師の立場からの印象としては、「現地に長く居住していると見失ってしまいがちなことを、生徒の素直な驚きに接したことで、大切さを逆に教わった」（スペイン）、「授業では、ポルトガル語の寸劇もあり、事前によく勉強されていると感じた」（ブラジル）、「授業当時、ロシアのサッカーチームで活躍する本田選手の話と、日本車ブランド<HONDA>とを関連付けて話を始めると、教室の雰囲気盛り上がった」等があった。

授業終了後、短時間ではあったが、同校の平松校長と歓談し、冬の風が湖面を吹き始めた琵琶湖畔を後にした。

今回授業を担当した講師：

氏名	授業担当国	出身会社
高山 滋 伸	エジプト	伊藤忠商事
堀 進	スペイン	丸 紅
赤 田 堅	ブラジル	丸 紅
橘 弘 志	ロシア	三井物産



授業を終えて粟津中学校平松校長（中央）と

アセアン諸国向け日本語パートナーズ

日本語教師養成講座コーディネーター

日本はアセアン諸国との文化交流促進のため、独立行政法人国際交流基金（以下「基金」）が中核となって予算300億円の諸事業を推進し、その一環として2020年までに、3,000人の日本語教師を派遣することとなり、日本では珍しい政治主導の大型文化交流事業として注目されている。

ABICは基金から協力要請を受け、事業の素案段階から意見交換の機会を持ち、3月12日に設立された「日本語パートナーズ派遣委員会」の委員8人の1人に関 伊知郎ABIC理事・事務局長が就任した。

派遣計画は、第1年度の2014年は約100人、2年目が約300人、それ以降は各年約525人で、派遣先は主要派遣国のインドネシア、タイ、マレーシア、ベトナムでは中等教育機関（日本の高校に相当）、その他のアセアン6カ国では高等教育機関、大学、民間学校等となっている。

日本語パートナーに期待される役割は1つではない。ベトナムのように日本語教育専門家の派遣を要望している例外はあるが、その他の国向けでは日本語教育経験を前提とせず、現地の日本語教師や学習者のパートナーとして、授業や会話の相手役となるとともに、教室内外で日本語・日本文化紹介活動を行い、現地の言語や文化に接し、アセアン諸国と日本との懸け橋となることを目指してほしいとされる。2014年秋から6ヵ月または10ヵ月の間インドネシア、タイ、フィリピンに派遣される60人の募集は既に締め切られた。

この事業は2013年1月インドネシアで安倍首相が、アジアの多様な文化・伝統を共に守り育てることをアセアン外交5原則の1つとして表明したのが発端となった。具体的な施策検討のための『アジア文化交流懇談会』（座長：山内昌之東京大学名誉教授）第1回会合が4月に開催され、9月末にまとめられた提言の柱の1つが日本語学習支援となった。また、中国が世界各地690ヵ所で『孔子学院』

を設置して中国語と中国文化普及に注力しているように、日本の施策も大胆であるべきとされた。

また同じ時期に『海外における日本語の普及促進に関する有識者懇談会』（座長：木村孟元東京工業大学学長）が発足、産学協同で議論を重ね、2013年12月に日本語の海外展開に関する報告書を外務省に提出した。そこでは海外への日本や日本語の魅力の発信が早急に対応すべき課題とし、日本語教育のIT化、Eラーニング講座開設、テレビ会議による日本語教師研修、存続の危機にひんしている海外中高教育機関の日本語講座への財政支援などが提案された。

日本語パートナーズ事業は、一定の成果を挙げているJET（英語教育補佐とスポーツ指導のための外国人招聘）プログラムの逆バージョンだが、最大の懸念材料はパートナーの確保であろう。潜在的な日本語教師の数はあっても、労働市場の表に出てきてない。新たな教師養成は無論大事だが、潜在的日本語教師をいかに掘り起こすかが緊急課題と思われる。

日本語パートナーズ事業を担う国際交流基金は外務省所管の独立行政法人で広範囲の文科芸術交流事業を進めているが、海外での日本語普及や日本研究・知的交流でも重要な役割を担っている。お台場の東京国際交流館でのABICの留学生支援事業で関わりのある日本国際教育支援協会の重要な業務は、日本語教育能力検定試験と今や受験者100万人にも及ぼんとしている日本語能力検定試験だが、日本語能力検定の海外での試験は基金との共催で、試験は基金が実施している。また、基金は北浦和の『日本語国際センター』などで、日本語教材の開発や外国人教師の養成・研修などを行っている。基金がこれまで海外に派遣してきた日本語教師は年間150人ほどで、そのうち専門講師は100人ほどといわれている。

留学生支援

東京国際交流館 春の新人館者歓迎バザー

5月にしてはや夏が続いた今月は、バザー当日の24日（土）も典型的な夏の日となった。今回は室内2カ所に設営した会場が、試着や品物選びをする来場者にとって涼しいオアシスともなった。特に色彩豊かな陶磁器や便利な生活用品に人気が集まり、昼過ぎには大半の台所用品が売り切れた。

今回もABIC会員および支援企業とその社員、ならびに日本貿易会の役職員等300名を超える方々から貴重な品物

を260箱ご寄贈いただき、20万円を超える売り上げを得ることができた。バザー売上金は前回同様に、同館の留学生支援活動に充当される。ご支援いただいた皆様には厚く感謝申し上げたい。

なお、バザー会場の近くに今年もABICブースを設け活動会員等が待機し、講座内容の説明と受講申し込みの受け付けを行った。

(留学生支援グループ)



事務局だより

関西会員懇親会を開催

2014年3月20日（金）18時～19時半、大阪三井物産ビル「季膳房」において開催しました。ABIC関西地区を中心とする約60名の参加者を得て、市村理事長の挨拶に続き、日本貿易会天野専務理事（ABIC監事）の乾杯挨拶の後、参加者の活発な交流が行われ、懇親を深めました。



市村理事長挨拶



日本貿易会天野専務理事
(ABIC監事) 乾杯挨拶

関東財務局主催説明会でABICを紹介

2014年3月27日（木）さいたま新都心合同庁舎で中小企業支援を目的とした同局主催の「専門家派遣事業等に係る説明会・相談会」が開催され、ABICは他支援組織とともに同局管轄1都9県の100を超える金融機関からの参加者に対して、関事務局よりABICの活動内容を紹介した。



その後の個別相談会には多くの金融機関からの担当者がABICブースを訪れ、個別に抱える疑問、要請などについてお互い意見交換を行った。

エッセー

心の健康と坐禅塾

まなご まさみつ
眞子 政光 (元 住友商事)

皆さんからよく坐禅をすると「無心」になれますかと尋ねられます。ですが無心は坐禅の結果であって坐禅の目的ではありません。実を申しますと無心になっている時は無心であるかどうかも分からなくなります。頓知みたいですが本当です。安倍総理が坐禅でよみがえったことや、アップル社の創業者である故スティーブ・ジョブズが坐禅に取り組み、彼が成功した要因の1つであることなどもあり、日経ビジネスが特集号を出版するなど、最近、坐禅は話題となっております。

さて、私自身は定年退職間近となった頃、身心の健康、特に心の健康とどう向き合ったら良いのか考えておりました。そしてまず頭に浮かんだのが坐禅をやってみようということでした。体験先を探していたところ、少林窟道場（広島県竹原市）に出会いその門をたたくことを決心しました。その道場で2週間ほど坐ったところ、当道場の井上希道老師より一定の評価を受け、また自分自身でも良い状態に達した心境を維持したいと思い、帰宅後も毎朝1時間程度の坐禅を続けることと致しました。私自身はさほど期待はしていませんでしたが結果は予想以上のもので、自宅での坐禅のほか年数回道場や禅寺での参禅にも取り組んでまいりました。

今日、科学の進歩や情報化社会の急速な進歩・発展には目を見張るものがあり、私たち現代人にとって不安要因ともなっております。これら社会の変化に対応していくためには、自己を見つめ・自己を確立することが重要であり近道であると考えております。また、禅は茶道・華道・能など日本文化の基本的要素ともなっており、坐禅は心の健康のみならず、人格形成面でも良い効果が期待されております。この様な中、私の個人的な坐禅体験に加えまして、2013年秋に参禅に訪れた御誕生寺の板橋興宗老師（元曹洞宗大本山総持寺管長）の薦めもありましたので、私自身は時期尚早とは思いましたが、これも何かの縁・機会と考え、2014年4月より自宅近くの仁川会館にて坐禅会「坐禅塾」

を始めることと致しました。

坐禅塾は宝塚市および西宮市の公報に掲載していただいたこともあり無事にスタートすることができました。坐禅は釈尊以来2500年、達磨大師以来1500年の歴史がありますが、釈尊はさて置き、禅宗は中国で起こり発展してきましたが、当の中国では禅宗のみならず仏教も弾圧され、その伝統は灰燼に帰するに至りました。そのため今や禅の中心はわが国日本であり、世界中で日本語起源のZENが共通語となっている次第です。坐禅塾では1500年の伝統を尊重しつつも、現代人にも受け入れやすい坐禅を目指しております。私自身の体験を踏まえ、単に坐るだけで精神面のみならず、種々の効果が認められたので、一人でも多くの人たちに坐禅を通じてより良い人生を送っていただきたいと願うに至りました。私の残り少ない人生ではありますが、この坐禅塾を軌道に乗せ私のライフワークとすることができれば望外の幸せではないかと願っております。

なお余談ですが、坐禅と平行して書道にも取り組んで5年程となります。特別な目的を持って書いているわけではありませんが、これからも書を楽しみながら禅語などにも取り組んで行きたいと思っております。私の拙い体験談にお付き合いいただき有難うございます。

合 掌

〈坐禅塾〉

開催場所：仁川会館

ホームページ：<http://www7.ocn.ne.jp/~zazenjk/>E-mail：zazenjuku@oregano.ocn.ne.jp

携帯電話：090-5366-8811



色紙へ揮毫



坐禅会場での筆者

ABIC事務局組織

2014年7月1日より下記の体制となりますのでお知らせ致します。



() は兼務者

- 総務・広報・OA めいきょう げいじ くろき ひろみ あおやぎ ゆき
名鏡 敬治、黒木 裕美、青柳 友紀
- 経理 (名鏡 敬治)
- 自治体・中小企業支援グループ しらishi いちろう かわたた じろう にいつま じゅんいち のつ ひろし
白石 一郎、川俣 二郎、新妻 純一、野津 浩、(高塚 謙次)
smesupp@abic.or.jp
- 外国企業支援グループ にしやま かつあき
西山 勝昭
support@abic.or.jp
- 大学等講座グループ もり かずしげ いがり まゆみ ふ せ かつひこ たにがわ たつお おんだ ひてはる ばんの まきのり
森 和重、猪狩 真弓、布施 克彦、谷川 達夫、恩田 英治、坂野 正典
univ@abic.or.jp
- 小中高校国際理解教育グループ (川俣 二郎)、^{たかつか けんじ}高塚 謙次
krikai@abic.or.jp
- 留学生支援グループ たなか たつお くわがた いまお
田中 武夫、鍬形 勲
abicodaiba@abic.or.jp
- 中南米デスク (森 和重)
chunanbei@abic.or.jp
- 関西デスク よしとみ しげたか まつ お けんじ ふじわら てるあき たちはな ひろし
吉富 茂隆、松尾 謙二、藤原 照明、橘 弘志
kansai-desk@abic.or.jp
- 産学共同プロジェクト (川俣 二郎、高塚 謙次、橘 弘志、松尾 謙二)

e-mailアドレス・住所等の変更届はお忘れなく！

e-mail アドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5970

会員の種類

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 1口 50,000円
		個人 1口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、並びに個人、法人及び団体。	法人及び団体 1口 10,000円
		個人 1口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 — —

正会員

団体・法人 (17社) 〈社名五十音順〉

〈10口〉 (一社)日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株)
 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株)
 〈1口〉 兼松(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人 (11名) 〈入会順・敬称略〉

池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男 岡 素之
 佐々木 幹夫 勝保 宣夫 〈3口〉 小林 栄三 槍田 松瑩 〈3口〉 市村 泰男

賛助会員

法人 (4社) 〈社名五十音順〉

(有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ (一社)国際行政書士機構 NPO法人賛否両論

個人 (404名) 〈敬称略・氏名五十音順〉

〈5口〉 廣瀬一郎 〈3口〉 前田茂 〈2口〉 遠藤寿一 小川秀洋 鬼山敬邦 川俣二郎 久佐賀義光 公平伸夫
 古知屋順 三幣利夫 篠原博 白石一郎 新藤哲雄 高廣次郎 多田勝彦 田中武夫 東宮邦雄 新妻純一
 花岡信明 原芳道 坂東寛隆 肥後照雄 福田洋子 藤井吉郎 藤井眞 細井進 前田耿史 松井史郎 松尾謙二
 松岡鉄 宮内雄史 名鏡敬治 柳沢信義 山田芳正 山本寧雄 山本一良 米代憲雄 〈1口〉 会川精司 相澤裕
 相原正和 赤尾義弘 赤澤克夫 赤田堅 芦刈茂樹 東光子 安達晋 厚浦孝之 安部忠 阿部徹 阿部雅志
 有田五郎 有田捷一 居内律治 伊賀豊和 猪狩眞弓 生島幸哉 池田正久 石川清 石橋満 市川彬 伊藤栄太郎
 伊東孝之 伊東泰 井上良彦 指宿順 今井明良 今井正孝 岩本洋之 植木正憲 上田巖 植田俊 上田博晟
 上野和郎 上森義美 浮貝泰匡 宇佐見和彦 薄葉徹郎 宇田定三 内川博文 内田康治 漆崎隆司 江藤茂雄
 榎本啓一郎 榎本盛明 江幡吉信 遠藤恭一 遠藤眞喜子 大木隆 扇文子 大久保浩司 大久保徳衛 大浩義之
 大坂和夫 太田俊一 太田宏 大塚昭雄 大西稔男 大橋幸多 大道豊彦 大森日出太郎 小笠原明生 小笠原正広
 岡田一茂 岡部紘 岡部好夫 岡本勝彦 岡本正 岡本徹 小川洋志郎 小口良喜 小國輝雄 奥山正裕 小沢規夫
 小澤清水 小野勝彦 小畑克之 小船井達夫 表尚志 織辺重之 恩田英治 柿山章 角井信行 風間誠 糟谷純一
 片岡紀二 片野無事生 片山丈義 加地潤二 加藤正芳 加藤保弥 金井好弘 嘉根俊治 金子和夫 金子康之
 金子義久 神谷誠一 加輪上敏彦 川嶋則男 川副和之 川村勝司 川本康博 川本恒彦 閑林亨平 岸達也
 北詰良三 吉川和夫 木村好作 木村滋 木村秀志 久木田修司 櫛田光彦 楠井裕章 工藤章 久保田隆

(賛助会員続き)

久保山毅 隈元泰弘 久山周孝 栗田政彦 黒岩浩一 黒岡誠一 鋤形勲 小池拓夫 郷原康親 国分利敬
 古園井良 児玉正博 後藤克 小畠孝治郎 小峯征三郎 小室洋三 近野治夫 齋藤幸博 酒井邦展 坂井啓治
 坂上恵一 坂本章 坂本俊寛 坂本行正 作田幸夫 笹岡太一 笹岡治男 佐藤貴実雄 佐藤徹 佐藤充宏
 佐藤隆二 佐良木忠男 沢田修吾 澤田豊治 塩野寛次 志岐明弘 七字道彦 信田光久 島悠紀夫 島谷豊
 城台巖 白井俊和 白土茂雄 城田比佐子 水光勲 須賀直比古 杉下由紀子 鈴木明 鈴木一三 鈴木惟高
 鈴木成高 鈴木紘司 鈴木昌宏 鈴木松子 須藤實 住井純三 関晃典 関晴至 関統造 関口幸男 園田真一
 高崎浩敏 高嶋宏臣 高田忍 高田弘 鷹津俊一 高塚謙次 高梨和彦 竹下浩 竹田信志 竹山克則 田島一靖
 田島義彦 橋弘志 田中昭彦 田中功 田中剛 田中徹郎 田中英樹 田中理明 田邊正明 谷川達夫 谷口武彦
 玉木興晶 丹治敬 淡野武司 千原長美 柘植幸弘 辻哲彦 辻萬亀雄 辻喜男 辻尾嘉文 土屋英五 都築秀之
 津守克平 手塚正明 寺澤昌敏 寺田好純 遠山晃 戸川順治 徳田均 都丸啓吉 富島紘一 友國洋 豊原道雄
 中倉弘紀 中嶋昭 中嶋鴻明 中島隆一 中園智子 仲田慎太郎 永田明司 中西孝之 中西康孝 中野英俊
 永峰千年 中村静雄 中村昂 中村紀雄 中村恭紀 梨本進 名達博吉 成重正和 西桂二郎 西澤俊一 西山勝昭
 似鳥進 新田充成 根岸徹 根岸史修 野口順一 野地哲臣 野津浩 野村哲三 則満洋祐 橋本裕一 橋本政彦
 橋本勝 蓮沼恒郎 畑宏幸 畑野浩 羽生憲夫 浜田元雄 林進 林常介 林裕二 林良英 葉利博 坂野正典
 日笠徹 疋田和三 菱川治 日比野圭三 平野實 廣田幸男 福井隆治 福原卓司 藤井健一郎 藤井希祐
 藤井義親 藤井重隆 藤田敬子 藤田卓 藤村登 藤森伸知 藤原照明 布施克彦 舟橋金之介 古瀬輝明 古橋肇
 保坂庄司 星野和俊 星野三喜夫 細野良敦 堀英一 堀正美 堀江博 前田祥治 前田直明 増田政靖 増本光男
 松浦義則 松岡壽夫 松下敏明 松村直治 松本信司 松本時男 松山功 松山久 眞弓博司 丸山松男
 三上亜佐橘 三神博美 三木喜道 味田村正行 三栗敏 光山武志 南賢 峯岸伸夫 峯本晴輝 宮井利之
 宮内貴正 宮内正敬 宮川正裕 宮崎善嗣 宮本正明 三好賢治 武藤滋郎 村井靖武 村澤嵩 村瀬和男
 村瀬省三 村林栄彦 持田修二 望月孜 森悦郎 森岳三 森和重 森達也 森秀夫 森川建夫 森田貴彦
 森松直毅 柳田敏明 山内文裕 山内幸雄 山岸正雄 山崎和彦 山路裕之 山下勝博 山田雅司 山田恭暉
 山見博康 山邑陽一 山本啓二 山本秀一 山本博勝 横井正豊 横田納 横田淑子 横山泰雄 吉川正男
 吉田紘 吉田房子 吉田泰興 吉富茂隆 鷲頭三郎 渡邊健三 渡邊春樹 渡邊義夫

活動会員 2,470名

(2014年5月末現在)

賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員及びその他の個人の方、
並びに法人及び団体の皆様のご入会をお願い申し上げます。

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23F

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5970 E-mail : mail@abic.or.jp